

| | | |
|----------|-------|----------------|
| 目標の柱 | 4 | 次世代の地域を担う人材の育成 |
| 基本目標(政策) | 4-1 | 自ら学ぶ人を育み、支援します |
| 基本計画(施策) | 4-1-1 | 教育環境の整備充実 |

| | | |
|-------|-------|-----|
| | 課 | 係 |
| 主管課・係 | 学校教育課 | 学校係 |
| 関係課・係 | | |

【施策の目的と取組・現状分析】

| <p>1 施策の目的(対象・意図)は何ですか? ※対象(誰が、何が)、意図(どのようになることを目指すのか)を対象ごとに記載してください。</p> | <p>①子どもたちが安全安心に学校生活を送り、人間性や社会性を磨くことができる。 ②子どもたちが主体的に学習に取組、確かな学力を身に付けるとともに、郷土愛に満ちた思いやりのある心豊かな人を育てることができる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|----------------|--|-----------------|---------------------|----------|---|-------------|--|----------|-------------------------|-------------|---------------------------|----------------|------------------|----------------|---|----------------|--|----------------|--------------------|----------------|----------------|----------------|----------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------------|----------------|----------------|-----------------|-----------------|--------------|
| <p>2 「目指すべき状態」になるための成果目標は何ですか?</p> | <p>▼「目指すべき状態」を実現するために目標とする成果は何ですか?箇条書きで記載してください。</p> <p>①子どもたちが切磋琢磨できる教育環境の整備、安全を最優先した学校施設の整備、情報活用能力を育成する教育機器の整備 ②学力の向上や豊かな心、健やかな体を育成するための教職員の適正配置、コミュニケーション能力の向上等次世代の地域を担う人材の育成</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>3 成果指標の状況(☆は追加した指標、※は変更した指標)</p> | <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">単位</th> <th>平成29年度</th> <th colspan="2">平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> </tr> <tr> <th>実績値</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 学校が好きな児童・生徒の割合</td> <td>小81.0 中45.1</td> <td>小83.0 中73.0</td> <td>小78.9 中61.3</td> <td>小83.0 中73.0</td> <td>小90.0 中90.0</td> </tr> <tr> <td>B 思いやりのある児童・生徒の割合</td> <td>小75.6 中58.7</td> <td>小77.0 中72.0</td> <td>小79.1 中75.2</td> <td>小82.0 中78.0</td> <td>小90.0 中90.0</td> </tr> <tr> <td>C 南会津町をもっと良くしたいと思う児童・生徒の割合</td> <td>小69.8 中41.6</td> <td>小70.0 中52.0</td> <td>小72.4 中53.0</td> <td>小73.0 中55.0</td> <td>小75.0 中70.0</td> </tr> <tr> <td>D 地域の教育資源を活用している学年の割合</td> <td>小85.7 中83.3</td> <td>小93.0 中87.0</td> <td>小100.0 中91.7</td> <td>小100.0 中93.0</td> <td>小100 中100</td> </tr> </tbody> </table> | 単位 | 平成29年度 | 平成30年度 | | 令和元年度 | 令和2年度 | 実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 目標値 | A 学校が好きな児童・生徒の割合 | 小81.0 中45.1 | 小83.0 中73.0 | 小78.9 中61.3 | 小83.0 中73.0 | 小90.0 中90.0 | B 思いやりのある児童・生徒の割合 | 小75.6 中58.7 | 小77.0 中72.0 | 小79.1 中75.2 | 小82.0 中78.0 | 小90.0 中90.0 | C 南会津町をもっと良くしたいと思う児童・生徒の割合 | 小69.8 中41.6 | 小70.0 中52.0 | 小72.4 中53.0 | 小73.0 中55.0 | 小75.0 中70.0 | D 地域の教育資源を活用している学年の割合 | 小85.7 中83.3 | 小93.0 中87.0 | 小100.0 中91.7 | 小100.0 中93.0 | 小100 中100 |
| 単位 | 平成29年度 | | 平成30年度 | | 令和元年度 | 令和2年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 実績値 | 目標値 | 実績値 | 目標値 | 目標値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A 学校が好きな児童・生徒の割合 | 小81.0 中45.1 | 小83.0 中73.0 | 小78.9 中61.3 | 小83.0 中73.0 | 小90.0 中90.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B 思いやりのある児童・生徒の割合 | 小75.6 中58.7 | 小77.0 中72.0 | 小79.1 中75.2 | 小82.0 中78.0 | 小90.0 中90.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C 南会津町をもっと良くしたいと思う児童・生徒の割合 | 小69.8 中41.6 | 小70.0 中52.0 | 小72.4 中53.0 | 小73.0 中55.0 | 小75.0 中70.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D 地域の教育資源を活用している学年の割合 | 小85.7 中83.3 | 小93.0 中87.0 | 小100.0 中91.7 | 小100.0 中93.0 | 小100 中100 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>4 成果指標の実績値は目標値に対してどうでしたか?</p> | <p>5 令和2年度の目標値達成の見込みと方向付け</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>▼その理由として考えられること</th> <th>見込み</th> <th>▼その根拠と目標値設定(変更)の考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A ④ 下回った</td> <td>小学生は、5年生が67.6%と低く、H29実績を若干下回った。中学生は高学年になるほど低い傾向がある。</td> <td>③ 取組改善で達成可能</td> <td>小学生、中学生とも高学年が、学校生活における責任感の増加や、受験等への不安が増加するの低い傾向がある。目標値を少し下げ、焦らず取り組みたい。</td> </tr> <tr> <td>B ② 上回った</td> <td>教育大綱の実現を目指した教育が定着しつつある。</td> <td>③ 取組改善で達成可能</td> <td>H30、R1年度からの道徳の教科化にも期待できる。</td> </tr> <tr> <td>C ② 上回った</td> <td>南会津町が好きな児童生徒は多い。</td> <td>③ 取組改善で達成可能</td> <td>少しずつ上昇しているため、地域の状況を把握できる機会を設ける等しながら、目標値を下げ、焦らず取り組みたい。</td> </tr> <tr> <td>D ① 大きく上回った</td> <td>校長会で活用を依頼したり、教職員を対象とした研修会を実施したこと等により小学生は100%を達成した。</td> <td>③ 取組改善で達成可能</td> <td>引き続き、校長会等で活用を依頼する。</td> </tr> </tbody> </table> | 評価 | ▼その理由として考えられること | 見込み | ▼その根拠と目標値設定(変更)の考え方 | A ④ 下回った | 小学生は、5年生が67.6%と低く、H29実績を若干下回った。中学生は高学年になるほど低い傾向がある。 | ③ 取組改善で達成可能 | 小学生、中学生とも高学年が、学校生活における責任感の増加や、受験等への不安が増加するの低い傾向がある。目標値を少し下げ、焦らず取り組みたい。 | B ② 上回った | 教育大綱の実現を目指した教育が定着しつつある。 | ③ 取組改善で達成可能 | H30、R1年度からの道徳の教科化にも期待できる。 | C ② 上回った | 南会津町が好きな児童生徒は多い。 | ③ 取組改善で達成可能 | 少しずつ上昇しているため、地域の状況を把握できる機会を設ける等しながら、目標値を下げ、焦らず取り組みたい。 | D ① 大きく上回った | 校長会で活用を依頼したり、教職員を対象とした研修会を実施したこと等により小学生は100%を達成した。 | ③ 取組改善で達成可能 | 引き続き、校長会等で活用を依頼する。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価 | ▼その理由として考えられること | 見込み | ▼その根拠と目標値設定(変更)の考え方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A ④ 下回った | 小学生は、5年生が67.6%と低く、H29実績を若干下回った。中学生は高学年になるほど低い傾向がある。 | ③ 取組改善で達成可能 | 小学生、中学生とも高学年が、学校生活における責任感の増加や、受験等への不安が増加するの低い傾向がある。目標値を少し下げ、焦らず取り組みたい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B ② 上回った | 教育大綱の実現を目指した教育が定着しつつある。 | ③ 取組改善で達成可能 | H30、R1年度からの道徳の教科化にも期待できる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C ② 上回った | 南会津町が好きな児童生徒は多い。 | ③ 取組改善で達成可能 | 少しずつ上昇しているため、地域の状況を把握できる機会を設ける等しながら、目標値を下げ、焦らず取り組みたい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D ① 大きく上回った | 校長会で活用を依頼したり、教職員を対象とした研修会を実施したこと等により小学生は100%を達成した。 | ③ 取組改善で達成可能 | 引き続き、校長会等で活用を依頼する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>6 「目指すべき状態」に対し、これまでどのような取組を行いましたか?</p> | <p>▼「目指すべき状態」の実現に向けて、取り組んだことは何ですか?箇条書きで記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の理解を得ながらより良い教育環境の実現のため、学校統合を実施した。 ・学校の耐震補強・大規模改修を行い、その後は必要に応じた学校施設の修繕を実施した。 ・高度化する情報化社会で生きる力を育むため、電子黒板の整備やタブレット型パソコンの導入を実施している。 ・教育大綱に基づく教育課程の編成や、幼稚園、小、中学校と段階に応じた郷土愛を育む学習等を実施した。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>7 施策の「対象」の現状はどのように変化しましたか?</p> | <p>▼ 現状把握に努めましたか。把握した現状とその変化、町民や議会の声などを記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設はおおむね良好に維持管理している。議会委員会の視察や教育委員の定期的な訪問でも現状の把握に努めている。また教育用パソコンの更新も計画的に行っている。 ・児童生徒が主体的に取り組む、学力の向上や豊かな心を育成するための教育活動は展開されている。その柱として幼稚園から高校まで通した「英語が話せる人材育成」の実施や、農山漁村交流事業などを実施している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

【施策の振り返り】

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>8 2の成果目標の視点から、成果が上がったことは何ですか?</p> | <p>▼ 成果があったと思われる点を、2の目標とする成果の視点から原因を踏まえて記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒にとって一定規模の集団での教育活動が保障され、社会性や人間性の育成が図られた。 ・児童生徒にとって安全、安心で学習や学校生活を送ることができる環境の改善が図られた。 ・生徒の英語学習への意欲や異文化に対する興味関心が高まり、コミュニケーション能力の育成や異文化理解が図られた。 ・児童生徒が自分たちの住む地域について学ぶことを通して、その良さを知る等町を愛する心の育成が図られた。 |
| <p>9 2の成果目標の視点から、問題点は何か?</p> | <p>▼ 問題があると思われる点を、2の目標とする成果の視点から原因を踏まえて記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のよりよい教育環境整備のため、減少する児童生徒の今後の状況を考慮し、学校の適正配置の検討が必要。 ・児童生徒数の減少に伴う新たなスクールバスの運行要望や、増加するバス運行費用に対応するため町民と混乗の検討が必要。 ・次世代に地域を担う人材を育成するために、英語によるコミュニケーション能力の育成や異文化理解を深める取り組みが必要。 ・地域について学び、郷土愛を育む教育活動の推進が必要 |

【結論として・・・(施策の振り返りも踏まえて)】

| <p>10 2の成果目標の視点から施策全体の今後の方向性は?</p> | <p>次世代の地域を担う人材を育成するための教育の充実</p> | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--|-----------|------------------------|-------------------|--------------|------------------------|--------------------|------------|-------------|-----------------------|-------------|--------------------------|
| <p>11 上記を踏まえ、施策の目的を実現させるためには、どのような「解決すべき問題への方策」・「達成できた事項をさらに伸ばす方策」がありますか? また具体的な対応・対策をどうしますか?</p> | <p>▼ 施策を実現するための「解決すべき問題への方策」と「達成できた事項をさらに伸ばす方策」を記入し、それらに対する今後の対応を具体的に記入してください。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>施策における「解決すべき問題への方策」または「達成できた事項をさらに伸ばす方策」</th> <th>具体的な対応・対策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>減少する児童生徒を考慮した学校の適正配置計画</td> <td>小中学校の適正配置計画について検討</td> </tr> <tr> <td>安全安心な教育環境の整備</td> <td>公共施設個別計画と並行しての修繕工事等の検討</td> </tr> <tr> <td>主体的に学習に取り組む教育環境の整備</td> <td>ICT活用教育の推進</td> </tr> <tr> <td>郷土愛を育む教育の充実</td> <td>副読本を活用しながら郷土愛を育む教育の推進</td> </tr> <tr> <td>英語が使える人材の育成</td> <td>発達段階(幼・小・中・高)に応じた英語教育の推進</td> </tr> </tbody> </table> | 施策における「解決すべき問題への方策」または「達成できた事項をさらに伸ばす方策」 | 具体的な対応・対策 | 減少する児童生徒を考慮した学校の適正配置計画 | 小中学校の適正配置計画について検討 | 安全安心な教育環境の整備 | 公共施設個別計画と並行しての修繕工事等の検討 | 主体的に学習に取り組む教育環境の整備 | ICT活用教育の推進 | 郷土愛を育む教育の充実 | 副読本を活用しながら郷土愛を育む教育の推進 | 英語が使える人材の育成 | 発達段階(幼・小・中・高)に応じた英語教育の推進 |
| 施策における「解決すべき問題への方策」または「達成できた事項をさらに伸ばす方策」 | 具体的な対応・対策 | | | | | | | | | | | | |
| 減少する児童生徒を考慮した学校の適正配置計画 | 小中学校の適正配置計画について検討 | | | | | | | | | | | | |
| 安全安心な教育環境の整備 | 公共施設個別計画と並行しての修繕工事等の検討 | | | | | | | | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む教育環境の整備 | ICT活用教育の推進 | | | | | | | | | | | | |
| 郷土愛を育む教育の充実 | 副読本を活用しながら郷土愛を育む教育の推進 | | | | | | | | | | | | |
| 英語が使える人材の育成 | 発達段階(幼・小・中・高)に応じた英語教育の推進 | | | | | | | | | | | | |

12 施策を構成する事務事業

| 番号 | 事務事業名 (令和元年度新規事業に★) | 所管課 担当係 | 事業の目的、概要、成果、問題、問題に対する対策を簡潔に記載してください。(2行以内) | | | | | |
|----|------------------------|------------|--|--|---------|---------|---------|---------|
| | | | 事業費(千円) | | | | | |
| | | | 30年度決算額 | うち一般財源 | 元年度予算額 | うち一般財源 | 2年度見込み額 | うち一般財源 |
| 01 | スクールソーシャルワーカー活用事業 | 学校教育課 | 目的 | 問題を抱える児童生徒の様々な環境に働きかけを行い、相談体制を整えとともに、問題行動の未然防止と課題解決を図る。 | | | | |
| | | | 概要 | 特別に支援を要する児童生徒への指導等の学校が抱える課題について、スクールソーシャルワーカーを配置(R1から3名)し、早期解決を図る。 | | | | |
| | | | 成果 | 家庭と学校との連携を深めながら、問題行動の未然防止と課題解決により、教育環境の充実が図られた。 | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 対象ケースが増加していること、家庭における教育、理解不足、学校の体制整備が不十分な点がある。 | | | | |
| | | | 対策 | 各学校の現状を把握し、スクールソーシャルワーカー要請や学校の支援体制の在り方、保護者の意識改革について検討 | | | | |
| | | | 事業費 | 8,468 | 8,468 | 10,219 | 10,219 | 10,219 |
| 02 | 県立田島高等学校後援会事業補助金 | 学校教育課 | 目的 | 田島高校後援会事業の充実を図る。 | | | | |
| | | | 概要 | 生徒の学力向上や部活動、中高一貫教育事業等へ助成する。 | | | | |
| | | | 成果 | 授業及び部活動等の支援により、学校運営の充実が図られ、入学生の減少にも歯止めがかかりつつある。 | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 近年、入学生徒数が減少傾向にあり、県から田島・南会津高校統合の計画が出された。 | | | | |
| | | | 対策 | 町・関係団体及び地域全体で存続に向け働きかける。 | | | | |
| | | | 事業費 | 6,766 | 6,766 | 6,815 | 6,815 | 6,815 |
| 03 | 県立南会津高等学校生徒確保支援事業補助金 | 学校教育課 | 目的 | 南会津高校生徒数確保支援事業の充実を図る。 | | | | |
| | | | 概要 | 冬季スクールバス運行や生徒遠征費等への助成など、生徒確保に向けた取組を支援する。 | | | | |
| | | | 成果 | 授業及び部活動等の支援により、学校運営の充実が図られ、入学生の減少にも歯止めがかかりつつある。 | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 近年、入学生徒数が減少傾向にあり、県から田島・南会津高校統合の計画が出された。 | | | | |
| | | | 対策 | 町・関係団体及び地域全体で存続に向け働きかける。 | | | | |
| | | | 事業費 | 5,185 | 5,185 | 5,668 | 5,668 | 5,668 |
| 04 | 県立高等学校通学生徒支援事業 | 学校教育課 | 目的 | 県立高校への通学に対する体制の整備を図る。 | | | | |
| | | | 概要 | 田島地域から南会津高校までのスクールバス運行事業 | | | | |
| | | | 成果 | 通学体制の充実により、田島地域から南会津高校への通学が容易となり、田島地域から南会津高校への入学者が増えた。 | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 近年、入学生徒数が減少傾向にあり、県から田島・南会津高校統合の計画が出された。 | | | | |
| | | | 対策 | 町・関係団体及び地域全体で存続に向け働きかける。 | | | | |
| | | | 事業費 | 5,929 | 5,929 | 6,322 | 6,322 | 6,322 |
| 05 | スクールバス運行 | 学校教育課 | 目的 | 遠距離通学児童・生徒に対する通学の利便を図る。 | | | | |
| | | | 概要 | 遠距離通学児童・生徒に対するスクールバスの運行 | | | | |
| | | | 成果 | 児童生徒の通学の利便が図られた。 | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 学校、保護者からの運行(乗車)要望の増加、運行経費の増加。 | | | | |
| | | | 対策 | 町民と児童生徒の混乗化の検討。 | | | | |
| | | | 事業費 | 123,668 | 117,088 | 127,790 | 125,186 | 128,000 |
| 06 | 特別支援教育支援員配置事業 | 学校教育課 | 目的 | 特別に支援が必要な児童生徒への学習・生活支援を行う。 | | | | |
| | | | 概要 | 特別に支援が必要な児童生徒への学習・生活支援のための特別支援教育支援員の配置 | | | | |
| | | | 成果 | 児童生徒への支援の実施により、学校生活への適応や学力の定着が図られた。 | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 特別に支援を要する児童生徒が増加傾向にある。支援員活用方法の理解に学校間で差がある。 | | | | |
| | | | 対策 | 適切な就学指導と保護者との教育相談の実施及び学校の支援体制の強化、支援員の適正な配置 | | | | |
| | | | 事業費 | 31,354 | 31,354 | 37,456 | 37,456 | 34,405 |
| 07 | 学習サポート事業 | 学校教育課 | 目的 | 中学生に対し英語でのコミュニケーション能力の育成と国際感覚を身に付けさせる。 | | | | |
| | | | 概要 | 町内の中学校4校で英語ライブ授業、異文化体験語学研修、英検受検、学習教材の提供を行う。 | | | | |
| | | | 成果 | 生徒の英語でのコミュニケーション能力の向上と言語や文化に対する理解が深まった。 | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 学校での普通の英語の授業内容との関連に課題がある。 | | | | |
| | | | 対策 | 学校現場での教師の評価が低かったライブ授業についてR1から実施をしないこととした。 | | | | |
| | | | 事業費 | 13,335 | 6,925 | 10,279 | 10,279 | 10,279 |
| 08 | 各種大会等出場助成事業 | 学校教育課 | 目的 | 児童生徒に活躍の場と機会を与え、一人一人の自己実現を図る。 | | | | |
| | | | 概要 | 中学生の中体連等大会出場に係る経費の援助など | | | | |
| | | | 成果 | 各種大会やコンクールなどで素晴らしい成績を収めることができた。 | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 大会参加におけるバスの確保 | | | | |
| | | | 対策 | バス借り上げの仕方の検討 | | | | |
| | | | 事業費 | 7,370 | 7,370 | 6,800 | 6,800 | 7,000 |

| | | | | | | | | | |
|----|--------------------|-------|-----|--|--------|--------|--------|--------|--------|
| 09 | 小学生農山漁村交流事業 | 学校教育課 | 目的 | 他地域の自然や文化・生活に触れることで視野を広げ、郷土や社会を支える人材育成を図る。 | | | | | |
| | | | 概要 | 小学5年生を対象に、南会津町とは環境が全く違う海沿いの地域で宿泊体験や自然体験活動を行い、見聞を広める。 | | | | | |
| | | | 成果 | 児童生徒の自主性や自立心、社会性、人間性の育成が図られた。 | | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 天候による体験活動の制限、町内の児童同士の交流の場と機会の確保 | | | | | |
| | | | 対策 | 天候による活動への影響が少ない実施場所への変更と町内の学校全体の混合班での活動 | | | | | |
| | | | 事業費 | 7,000 | 6,768 | 7,889 | 7,889 | 7,800 | 7,800 |
| 10 | 学校教育力向上プラン事業 | 学校教育課 | 目的 | 学級マネジメント能力(学級経営力)を向上させ児童生徒の生活と学習面の指導の向上を図る。 | | | | | |
| | | | 概要 | QU式検査の実施により学級の実態を把握し、指導に役立てる。 | | | | | |
| | | | 成果 | 望ましい学級集団づくりや個に応じた手立てのための資料として活用でき、いじめ防止対策にもつながった。 | | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 検査結果の効果的な活用方法 | | | | | |
| | | | 対策 | 学校教育指導委員会(各校1名)による情報交換や研修機会の充実 | | | | | |
| | | | 事業費 | 878 | 878 | 912 | 912 | 900 | 900 |
| 11 | 複式学級支援事業 | 学校教育課 | 目的 | 非常勤講師を配置し、学習指導・生徒指導の充実を図る。 | | | | | |
| | | | 概要 | 複式学級となる学校に県配置加配教員の時数不足分を町が負担し、非常勤講師として雇用する。 | | | | | |
| | | | 成果 | H30年度は事業の実施無 | | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 今後の町内の小中学校の児童生徒数の推移からの配置基準の設定 | | | | | |
| | | | 対策 | 小学校2年生以上については県の加配基準に基づき、小学校1年生を含む場合は町学習支援員を配置 | | | | | |
| | | | 事業費 | 0 | 0 | 6,694 | 6,694 | 7,000 | 7,000 |
| 12 | 外国青年招致事業費 | 学校教育課 | 目的 | 外国語指導助手を招致し、小・中学校の英語指導の充実を図る。 | | | | | |
| | | | 概要 | 小・中学校の英語指導のため外国語指導助手を招致する。 | | | | | |
| | | | 成果 | 英語教育の充実と学力の向上が図られた。 | | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 外国語指導助手の有効活用と勤務規律の保持 | | | | | |
| | | | 対策 | 教育委員会の指導の徹底と南会津地方広域圏組合との連携強化 | | | | | |
| | | | 事業費 | 23,146 | 22,882 | 22,342 | 22,078 | 22,313 | 22,049 |
| 13 | 教職員住宅管理費 | 学校教育課 | 目的 | 教職員の生活環境の充実を図る。 | | | | | |
| | | | 概要 | 教職員住宅の管理・整備充実 | | | | | |
| | | | 成果 | 住宅環境の整備により、生活環境の充実が図られた。 | | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 教職員住宅の老朽化により、建て替え等が必要 | | | | | |
| | | | 対策 | 教職員住宅の計画的な修繕、廃止等検討する。 | | | | | |
| | | | 事業費 | 7,363 | 7,363 | 3,950 | 3,950 | 7,500 | 7,500 |
| 14 | 副読本編集事業 | 学校教育課 | 目的 | 児童生徒の郷土愛を育み、教育大綱の基本目標「町を愛し思いやりのある人」の育成を図る。 | | | | | |
| | | | 概要 | 2カ年計画の事業で取材・撮影、原稿作成等を行う。 | | | | | |
| | | | 成果 | H28、29年度で製本まで完成した。 | | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 特になし | | | | | |
| | | | 対策 | 今後は新入学生分の増刷をしていく。 | | | | | |
| | | | 事業費 | 1,281 | 1,281 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 15 | 郷土愛を軸としたキャリア教育推進事業 | 学校教育課 | 目的 | 次世代を担う人材として、町を愛し、将来町に貢献しようとする人材を育成する。 | | | | | |
| | | | 概要 | 町内の小中学校において、地域について学ぶ学習活動や地域での職場体験学習等を取り入れる。 | | | | | |
| | | | 成果 | 地域の人とのかかわりを持ちながら郷土を愛する子供たちの育成が図られた。 | | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 現状では特になし | | | | | |
| | | | 対策 | 引き続き事業を継続していく。 | | | | | |
| | | | 事業費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 16 | 県立高校魅力化事業 | 学校教育課 | 目的 | 町内にある2つの高等学校(田島・南会津)の入学生徒を確保する。 | | | | | |
| | | | 概要 | 英語が使える人材育成計画とも関連させ、高等学校1年に異文化体験施設(ブリティッシュ・ヒルズ)での体験学習をする機会を設ける。 | | | | | |
| | | | 成果 | 中学校での学習サポート事業を土台に、高校生になっても英語によるコミュニケーション能力や言語、文化に対する理解が深まった | | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 現状では特になし | | | | | |
| | | | 対策 | この事業の継続によって「生徒数確保」と「地域を担う人材の育成」に繋がるよう、中学生への周知を実施していく。 | | | | | |
| | | | 事業費 | 3,015 | 3,015 | 4,001 | 4,001 | 4,000 | 4,000 |
| 17 | ブーメラン奨学金の活用 | 学校教育課 | 目的 | 次代を担う人材として、町を愛し、将来町に貢献しようとする人材(医療面)を育成する。 | | | | | |
| | | | 概要 | 地元の医療機関で働く看護師の育成(町の医療機関で10年働けば返還なし) | | | | | |
| | | | 成果 | 現在対象者5名に奨学金を貸与し、猶予中2名だが、成果としては今後になる。 | | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | ※現状としては特になし | | | | | |
| | | | 対策 | ※現状としては特になし | | | | | |
| | | | 事業費 | 0 | 0 | | | | |

| | | | | | | | | | |
|------------------|--------------|-------|---------|---|---------|---------|---------|---------|--------|
| 18 | ICT教育推進事業 | 学校教育課 | 目的 | 高度化する情報化社会の中で、子どもたちの生きる力を養うために環境整備を行う。 | | | | | |
| | | | 概要 | 各小中学校の普通教室にICT機器(電子黒板・書画カメラ・タブレット)を導入した。 | | | | | |
| | | | 成果 | 実証校において、ICT機器を活用した教育の充実が図られ、児童生徒の学習意欲の向上につながった。 | | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | ICT機器を有効活用した教育活動の推進 | | | | | |
| | | | 対策 | 各校での効果的な活用方法について町全体で共有する場と機会の設定 | | | | | |
| | | | 事業費 | 9,212 | 9,212 | 20,709 | 20,709 | 22,000 | 22,000 |
| 19 | 山村留学受入事業 | 学校教育課 | 目的 | 児童生徒が一定の集団の中で切磋琢磨しながら学ぶことができる教育環境を整備する | | | | | |
| | | | 概要 | 町の現状を踏まえ、山村留学の受入の可否について調査・検討をする。 | | | | | |
| | | | 成果 | 山村留学事業予備調査及びコンサルティング業務委託をし、調査報告書を作成した。 | | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 特になし | | | | | |
| | | | 対策 | 調査報告書の結果を踏まえ、地域協議会を中心に各地域で説明しながら、町民の意見をもらって受け入れ態勢の構築を図っていく。 | | | | | |
| | | | 事業費 | 0 | 0 | 96 | 96 | 150 | 150 |
| 20 | 英語が話せる人材育成事業 | 学校教育課 | 目的 | 今後の地域を担う人材として、高校卒業までに簡単な日常会話できる人材を育成する。 | | | | | |
| | | | 概要 | 発達段階に応じて英語教育を推進する。(小学校5・6年生年間3回、3・4年生年1回、英語ライブ授業を実施) | | | | | |
| | | | 成果 | 英語に対する興味、関心を持つ児童が増えている。 | | | | | |
| | | 学校係 | 問題 | 特になし。 | | | | | |
| | | | 対策 | | | | | | |
| | | | 事業費 | 2,000 | 2,000 | 2,010 | 2,010 | 2,000 | 2,000 |
| 事業費(一般財源)の合計(千円) | | | 255,970 | 242,484 | 279,952 | 277,084 | 282,371 | 279,303 | |